



## L コマンド

---

この章では、L で始まるシステム管理コマンドについて説明します。

# logging abort

Syslog サーバの設定に対する保留中の変更を廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

## logging abort

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

### 例

次に、Syslog サーバの設定に加えられた変更を廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# logging abort
switch(config)#
```

### 関連コマンド

| コマンド                        | 説明   |
|-----------------------------|--|
| <b>logging distribute</b>   | CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。 |
| <b>show logging pending</b> | Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。                                |
| <b>show logging status</b>  | ロギング ステータスを表示します。  |

# logging commit

ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットするには、**logging commit** コマンドを使用します。

## logging commit

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

### 例

次に、Syslog サーバ設定の配布をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)# commit
switch(config)#
```

### 関連コマンド

| コマンド                       | 説明   |
|----------------------------|--|
| <b>logging distribute</b>  | CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。 |
| <b>show logging status</b> | ロギング ステータスを表示します。  |

# logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging console** [*severity-level*]

**no logging console**

## 構文の説明

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <i>severity-level</i> | (任意) 作成するメッセージログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b> : 緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b> : アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b> : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>3</b> : エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b> : 警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b> : 通知。正常だが注意が必要な状態です。</li> <li>• <b>6</b> : 情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b> : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |
|-----------------------|---|

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、コンソールセッションで重大度 4（警告）以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
```

## 関連コマンド

| コマンド                        | 説明                  |
|-----------------------------|---------------------|
| <b>show logging console</b> | コンソール ロギング設定を表示します。 |

# logging distribute

Cisco Fabric Service (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging distribute**

**no logging distribute**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

配布はディセーブルです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
switch(config)#
```

次に、Syslog サーバ設定の配布をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no logging distribute
switch(config)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                       | 説明   |
|----------------------------|--|
| <b>logging abort</b>       | Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。                 |
| <b>logging commit</b>      | ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する変更をコミットします。 |
| <b>show logging status</b> | ロギング ステータスを表示します。                                |

# logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}**

**no logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}**

## 構文の説明

|                     |  |
|---------------------|--|
| <b>link-status</b>  | すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。        |
| <b>trunk-status</b> | すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。               |
| <b>default</b>      | ロギングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのロギング設定を使用します。 |
| <b>enable</b>       | ポート レベルの設定を上書きしてロギングをイネーブルにします。                |

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
```

## 関連コマンド

| コマンド                | 説明                |
|---------------------|-------------------|
| <b>show logging</b> | ロギング ステータスを表示します。 |

# logging event port

インターフェイスのイベントをログに記録するには、**logging event port** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログの記録をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging event port** {link-status | trunk-status} [default]

**no logging event port** {link-status | trunk-status}

| 構文の説明 | link-status  | すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージをログに記録します。         |
|-------|--------------|---|
|       | trunk-status | すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。                |
|       | default      | (任意) ログが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのログ設定を使用します。 |

コマンドデフォルト なし

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション モード

| コマンド履歴 | リリース         | 変更内容            |
|--------|--------------|-----------------|
|        | 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

例 次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# logging event port link-status default
```

| 関連コマンド | コマンド                  | 説明                            |
|--------|-----------------------|-------------------------------|
|        | <b>show interface</b> | インターフェイス コンフィギュレーション情報を表示します。 |
|        | <b>show logging</b>   | ログ ステータスを表示します。               |

# logging level

指定した重大度以上の定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging level facility severity-level**

**no logging level facility severity-level**

## 構文の説明

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <i>facility</i>       | ファシリティ。ファシリティのリストを付録 A「システム メッセージ ロギング ファシリティ」の表 A-1 に示します。<br><br>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 <b>all</b> ファシリティを使用します。  |
| <i>severity-level</i> | 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b>：緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b>：アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b>：クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>3</b>：エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b>：警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b>：通知。正常だが注意が必要な状態です。</li> <li>• <b>6</b>：情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b>：デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |

コマンドデフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容  |
|--------------|---|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。   |
| 5.0(3)N1(1)  | マルチキャストおよびユニキャスト ルーティング機能のサポートが追加されました。   |
| 5.0(3)N2(1)  | Flex Link および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) の N ポート バーチャライザ (NPV) のサポートが追加されました。 |

---

**例**

次に、重大度が 2 以上の AAA ファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging level aaa 2
```

---

**関連コマンド**

| コマンド                      | 説明                        |
|---------------------------|---------------------------|
| <b>show logging level</b> | ファシリティ ロギング レベルの設定を表示します。 |

# logging logfile

システム メッセージを格納するログ ファイルの名前、およびそのファイルへのログ記録の対象となる最小重大度を設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging logfile** *logfile-name severity-level* [*size bytes*]

**no logging logfile** [*logfile-name severity-level* [*size bytes*]]

## 構文の説明

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <i>logfile-name</i>   | システム メッセージを格納するログ ファイルの名前を設定します。  |
| <i>severity-level</i> | 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b>：緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b>：アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b>：クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>3</b>：エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b>：警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b>：通知。正常だが注意が必要な状態です。</li> <li>• <b>6</b>：情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b>：デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |
| <i>size bytes</i>     | (任意) 最大ファイル サイズを指定します。デフォルトのファイル サイズは 4194304 バイトです。設定可能範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。   |

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、システム メッセージを格納する **logfile** という名前のログ ファイルを設定し、その重大度を 4 に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging logfile logfile 4
```

## 関連コマンド

| コマンド                        | 説明             |
|-----------------------------|----------------|
| <b>show logging logfile</b> | ログ ファイルを表示します。 |

# logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging module** [*severity-level*]

**no logging module**

## 構文の説明

|                       |  |
|-----------------------|--|
| <i>severity-level</i> | (任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b> : 緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b> : アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b> : クリティカル。クリティカルな状態です。</li> <li>• <b>3</b> : エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b> : 警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b> : 通知。正常だが注意が必要な状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>6</b> : 情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b> : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |
|-----------------------|--|

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

指定された重大度を設定、またはデフォルトを使用します。

## 例

次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging module
```

## 関連コマンド

| コマンド                       | 説明                      |
|----------------------------|-------------------------|
| <b>show logging module</b> | モジュール ロギング ステータスを表示します。 |

# logging monitor

デバイスでモニタ（端末回線）のメッセージのログをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging monitor** [*severity-level*]

**no logging monitor**

## 構文の説明

|                       |   |
|-----------------------|---|
| <i>severity-level</i> | <p>(任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b> : 緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b> : アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b> : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>3</b> : エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b> : 警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b> : 通知。正常だが注意が必要な状態です。</li> <li>• <b>6</b> : 情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b> : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |
|-----------------------|---|

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

この設定は、Telnet セッションと Secure Shell (SSH; セキュア シェル) に適用されます。

## 例

次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging monitor
```

## 関連コマンド

| コマンド                        | 説明                    |
|-----------------------------|-----------------------|
| <b>show logging monitor</b> | モニタ ロギング ステータスを表示します。 |

# logging server

指定したホスト名または IPv4/IPv6 アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。リモート Syslog サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel
| local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog
| user | uucp} | use-vrf {vrf_name | management}]
```

```
no logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp |
kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news
| syslog | user | uucp} | use-vrf {vrf_name | management}]
```

## 構文の説明

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <i>host</i>                     | リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレス。  |
| <i>severity-level</i>           | (任意) 作成するメッセージ ログの重大度です。指定されたレベルまたは指定されたレベルよりも小さい数値のメッセージがログに記録されます。重大度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b> : 緊急事態。システムは使用不能です。</li> <li>• <b>1</b> : アラート。早急なアクションが必要です。</li> <li>• <b>2</b> : クリティカル。クリティカルな状態です。デフォルトはこのレベルです。</li> <li>• <b>3</b> : エラー。エラー状態です。</li> <li>• <b>4</b> : 警告。警告状態です。</li> <li>• <b>5</b> : 通知。正常だが注意が必要な状態です。</li> <li>• <b>6</b> : 情報。情報目的のメッセージだけです。</li> <li>• <b>7</b> : デバッグ。デバッグ実行時にだけ表示されます。</li> </ul> |
| <b>facility</b> <i>facility</i> | (任意) 発信ファシリティ ( <i>facility</i> ) を指定します。ファシリティのリストを付録 A 「システム メッセージ ロギング ファシリティ」の表 A-1 に示します。<br>デフォルトの発信ファシリティは <b>local7</b> です。  |
| <b>vrf</b> <i>vrf_name</i>      | (任意) リモート サーバで使用される Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。  |
| <b>management</b>               | 管理 VRF を指定します。これがデフォルトの VRF です。  |

## コマンド デフォルト

デフォルトの発信ファシリティは **local7** です。  
デフォルト VRF は **management** です。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容                          |
|--------------|-------------------------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。               |
| 4.1(3)N2(1)  | <b>use-vrf</b> キーワードが追加されました。 |

## 例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定された IPv4 アドレスにリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server 192.168.2.253
```

次に、指定されたホスト名のリモート Syslog サーバで、重大度 5 以上のメッセージがログに記録されるように設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server syslogA 5
```

## 関連コマンド

| コマンド                       | 説明                      |
|----------------------------|-------------------------|
| <b>show logging server</b> | 設定済みの Syslog サーバを表示します。 |

# logging timestamp

ロギング タイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。ロギング タイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}

**no logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}

| 構文の説明               |  |  |
|---------------------|--|--|
| <b>microseconds</b> |  | ロギング タイムスタンプに使用する単位をマイクロ秒に指定します。デフォルトの単位は <b>seconds</b> です。 |
| <b>milliseconds</b> |  | ロギング タイムスタンプに使用する単位をミリ秒に指定します。                               |
| <b>seconds</b>      |  | ロギング タイムスタンプに使用する単位を秒に指定します。デフォルトの単位は <b>seconds</b> です。     |

コマンドデフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション モード

| コマンド履歴 | リリース         | 変更内容            |
|--------|--------------|-----------------|
|        | 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

使用上のガイドライン デフォルトでは、単位は秒です。

例 次に、ロギング タイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging timestamp microseconds
```

| 関連コマンド | コマンド                          | 説明                     |
|--------|-------------------------------|------------------------|
|        | <b>show logging timestamp</b> | ロギング タイムスタンプの設定を表示します。 |